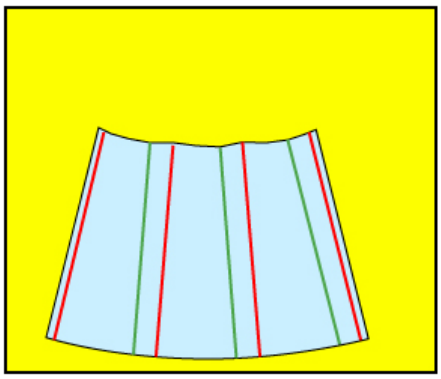
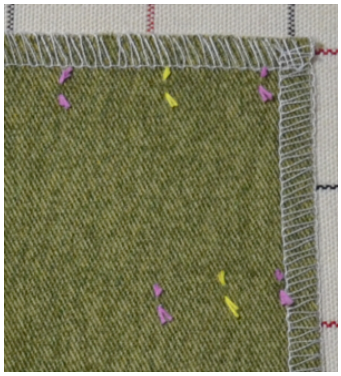
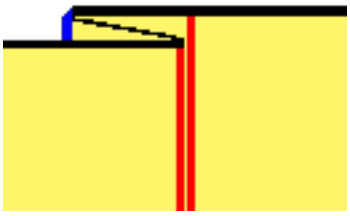
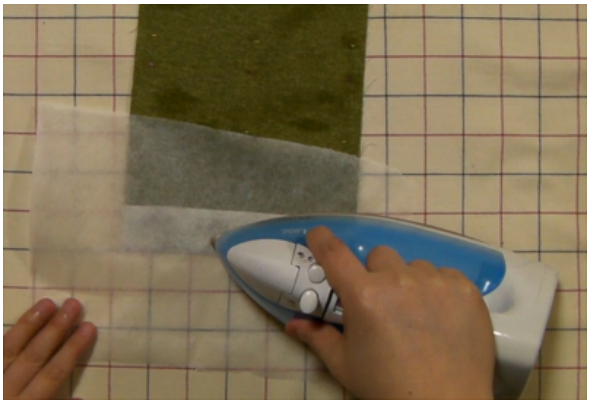
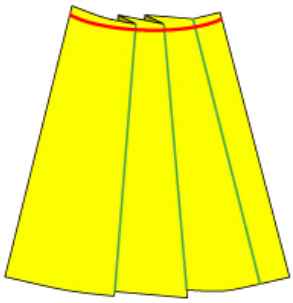
<table>
<tr><td>  </td><td>スカートは、布の裏から印をつけるか、表から印をつけるかによってヒダの向きが変わります。
この型紙は布の表に重ねて作ってください。
各パーツ1枚ずつ切ってください。</td></tr>
<tr><td>表　裏　接着芯</td><td>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。
くわしくは縫う前の下準備を参照してください。
指定がなければ縫い代は1ｃｍで縫ってください。</td></tr>
<tr><td> </td><td> 
印は切りじつけで入れると裏表両方から見ることが出来ます。
また山折と谷折の折り目の糸の色を変えると折るときに混乱せずにすみますよ</td></tr>
<tr><td>  </td><td>型紙に書かれたとおりに、アイロンで山折り、谷折りして、折り目を付けてください</td></tr>
<tr><td>  </td><td>ポイント
生地によってアイロンの適正な温度が異なります。
綿なら高温、化繊が入っている場合は中温、毛の場合は低温でアイロンをかけてください。
温度を間違えると、折り目がつかなかったり、生地が熱で引きつったり表面にテカリが入ったりしますよ。
伸びないようにするためにハンカチ位の厚さのはぎれを上にかぶせてアイロンをかけてください。</td></tr>
</table>



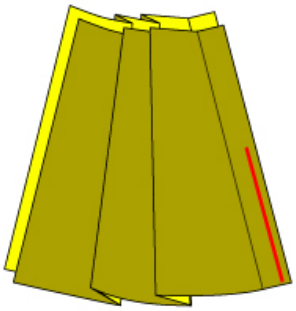
ポイント。
一番端のヒダ（ファスナーをつける脇のヒダ）は固定しないでください。

ヒダがとれないように上から５mm位の所を縫ってください。

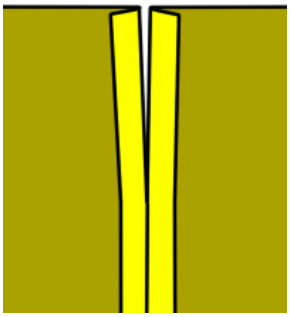
おすすめアイテム

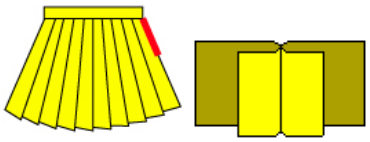
ファッションライナー折り目固定液

生地に湿る程度に振りかけてアイロンをかけると、プリーツが消えにくくなります。
プリーツスカートや、袴もどきを作る際の必須アイテムです。
これをしていないと、大概の生地は着ているうちにヒダが消えてしまいます。



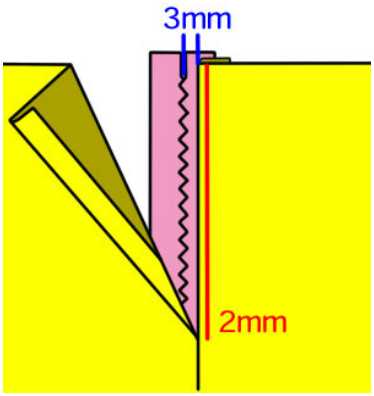
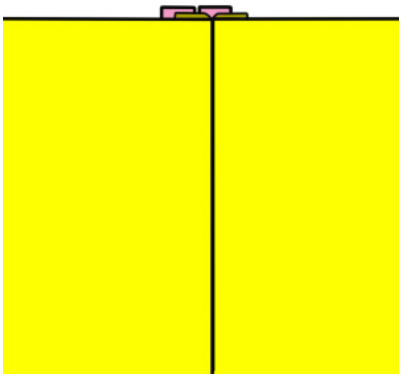
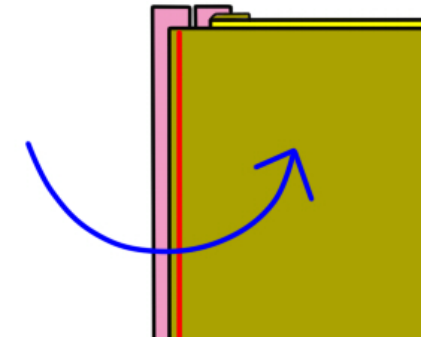
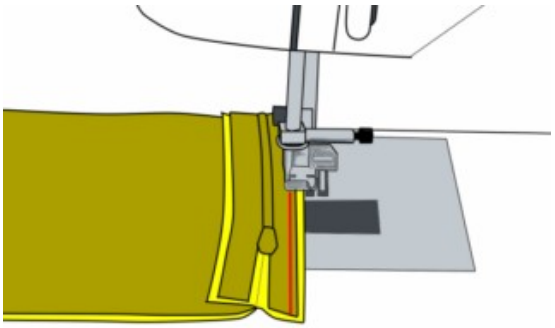
前と後ろのファスナーをつけるスカートのパーツを表同士が内側になるように重ねてください。
（前スカートＡと後ろスカートＣ）
ファスナーを付ける方だけ1.5ｃｍの縫い代で縫ってください。
あきどまり（ファスナーが開く境目）からすそまで縫ってください。
まっすぐ縫うのが苦手な方はしつけ糸で縫ってからミシンで縫うと安心ですよ。

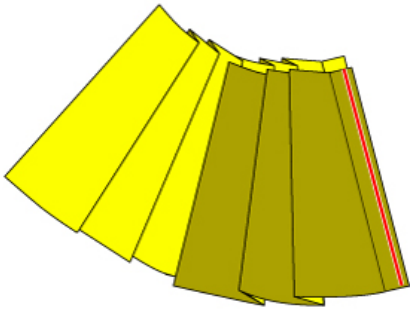




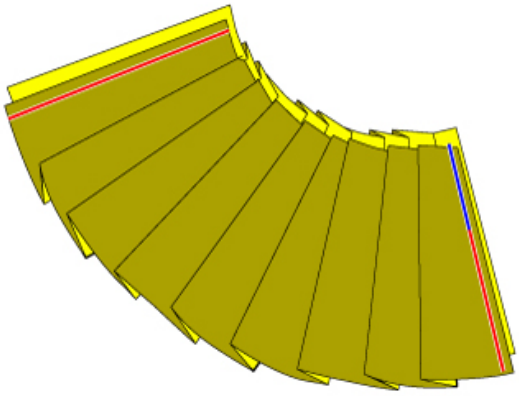
アイロンでファスナーをつける所の縫い代を左右に折って広げてください。

ミシンの押さえをこのような形のファスナー押さえと取り替えてください。

	後スカートの縫い代の下に、表を上にしたファスナーを重ねてください。 ファスナーのムシ(レール部分）が後スカートの折り目から3mmほどはみ出させてください。 折り目から2mmのところを縫って下さい。 縫うのになれていない人は、仕付け糸で手縫いしてから縫うと縫いやすいです。
	縫い代の折り目をぴったり合わせてください。
 	折り目の位置を合わせたまま前スカートを後スカートに重ねてください。 ファスナーの近くを縫ってください。 スカート側から縫いにくいときはしたのイラストのようにファスナー側を上にすると縫いやすいすよ。

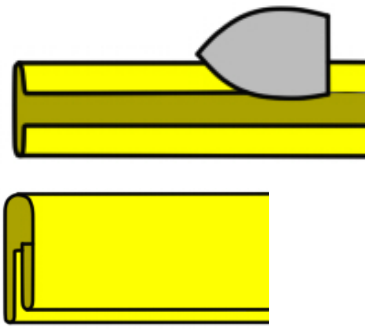


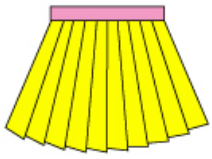
前スカートＡの横に前スカートＢ，Ｂの隣にＣをと表同士が内側になるように重ねて脇を縫ってください。



円になるようにつなげてください

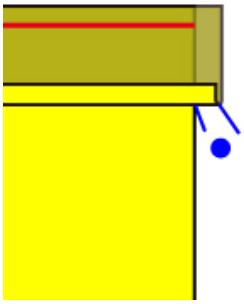
ウエストベルトを縫ってください。
ウエストベルトの縫い方手前



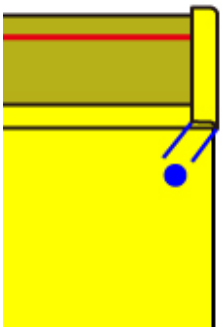
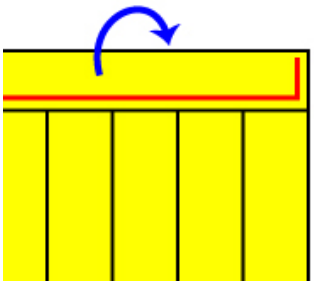
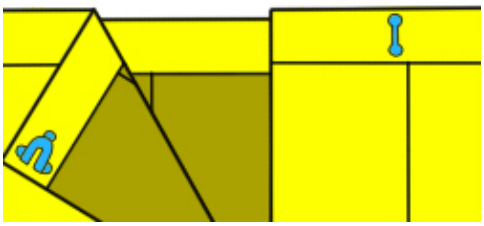
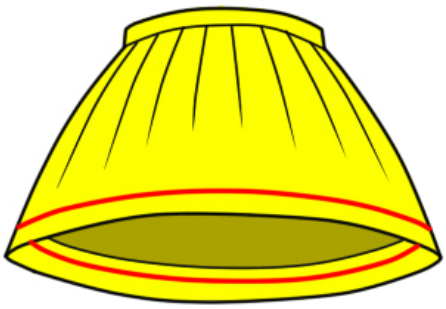


ウエストベルトはあらかじめアイロンで縫い代を裏側に折ってください。
さらに半分に折ってください。

ウエストベルトの裏全体に接着芯を貼っておくのを忘れずないでください。
芯がないとヘロヘロした仕上がりになるよ。



スカートとベルトを表同士が内側になるように重ねてください。
スカートよりベルトが●＝１ｃｍはみ出すように重ねて縫ってください。

	両端の縫い代を裏へ折ってください。
	スカートの縫い代をベルトで包んでください。 ベルトを縫ってください。
	かぎホックをつけてください。 カギホックのつけ方
	ヒダを広げて裾（すそ）をアイロンで2ｃｍ幅に折ってください。 すそを縫ってください。 完成です。

必要な道具
表生地　糸　ファスナー(エフロン、フラットニットという名称のもの）　14ｃｍ以上　　ベルト芯（接着芯）

おすすめの生地

・ポリエステルツイル
ポリエステルが入るとしわが入りにくくなります

・綿ツイル
もっともポピュラーで縫いやすい生地です。
ですが綿１００%だとどうしても
腰掛けたりするとシワが付きやすいのが難点です。
扱いは非常に簡単なんですけどね。

- タータンチェック